学校法人中部大学　創立80周年記念国際シンポジウム

私たちは、ポスト・コロナ時代をどう拓くのか？

アジア発の文化と科学技術は
「いのち」中心の新たな
地球価値パラダイムを
創造できるか

＜ローマクラブとの
コラボレーション＞

参加登録
https://www.chubu.jp/80th/news/8733/

**学校法人中部大学創立80周年記念
シンポジウムとして、50周年を迎えたローマクラブの
ワイツゼッカー名誉会長らと、20世紀西欧システムが
もたらした経済、政治、気候、感染症による危機に陥った
地球社会を立て直すために、受容とバランスを拠り所とする
日本の文化、科学技術が独自の未来を築いていく道を探ります。
中部大学が擁する世界トップクラスの研究者集団と
ローマクラブメンバーが協力し合うことにより、
新たな時代の地平を拓くチャレンジを展望します。**

世界同時Web中継　日英同時通訳

2020年10月14日(水)
14:00～16:30

中央ヨーロッパ 7:00～　アメリカ西海岸13日 22:00～

中部大学 春日井キャンパス
中部大学三浦幸平メモリアルホール

**学校法人中部大学
創立80周年記念国際シンポジウム実行委員会**
中部大学春日井キャンパス
愛知県春日井市松本町1200　TEL:0568-51-9400
E-mail: 80symposium@office.chubu.ac.jp

主催：学校法人 中部大学　**共催**：ローマクラブ日本、中日新聞社
後援：アジア開発銀行研究所、国際連合地域開発センター、日本工学アカデミー、日本環境共生学会、国連大学サステイナビリティ高等研究所、中部ESD拠点協議会（RCE Chubu）、中部圏SDGs広域プラットフォーム

学校法人中部大学 創立80周年記念国際シンポジウム

「私たちは、ポスト・コロナ時代をどう拓くのか？」

アジア発の文化と科学技術は「いのち」中心の新たな「地球価値パラダイム」を創造できるか

西欧思想が支配的であった20世紀が終焉し、20年が経過したが、日本も世界も、未だ、20世紀型発想から抜け出せていない。それどころか、経済利益志向は加速一辺倒。気候変動をはじめとする環境危機への警鐘こそ聞かれるようにはなったが、大きな状況改善の動きは見られなかった。
トレンドとして、例えば、国連により、2015年にSDGsが掲げられたが、これも西欧的発想が土台となったもの。
一方、日本やアジアには、われわれ人間は自然の懐の中で、生きているのではなく、生かされている存在でしかない、という「自然（じねん）観」がある。また、人間社会に目を転じれば、いわゆる西洋型の「自己主張する個」よりも、まず「同調し協調を重んじる個」であったり「譲り合える個」である方が価値は高いとされる風習もアジア各地で見ることができる。こうした「東洋型」ともいうべき「価値軸」は、未来を拓く環境問題解決に向けて、必要不可欠な捉え方であると考える。

時あたかも、世界は同時にCovid-19の出現を経験した。怯え慄き、初めて、それまでの振る舞いを止めた。大袈裟に表現すれば「世界同時多発　覚醒」とでも呼べようか。

60年代のバックミンスター・フラー氏の言葉を持ち出すまでもないが「宇宙船地球号」の乗組員としての「地球人」意識を繋げるに絶好な時代がやってきたとも言える。

本シンポジウムでは、ローマクラブから名誉会長をはじめ8名を招いて討議し、20世紀西欧システムがもたらした経済、政治、気候、感染症の危機に陥っている地球社会を立て直すために、受容とバランスを拠り所とする日本の文化、科学技術が独自の未来を築いていく道を探る。また、中部大学が擁する、世界トップクラスの教員とローマクラブ日本メンバーが協力し合うことにより、新たな時代の地平を拓く、どのようなチャレンジが可能なのか、についても探っていきたい。

[1] オープニング鼎談：Post COVID-19 パンデミックにおける中部大学 80 周年とローマクラブ日本
飯吉厚夫（中部大学理事長 / 総長）
野中ともよ（中部大学客員教授 /NPO ガイアイニシアティブ代表 / ローマクラブ執行役員 / 元 NHK メインキャスター / 元三洋電機会長）
林　良嗣（中部大学持続発展・スマートシティ国際研究センター長 / ローマクラブ日本代表 / 世界交通学会 WCTRS 前会長・COVID-19 Taskforce 委員長）

[2] キーノート：Come On! 目を覚まそう！
～わたしだけの経済から人と地球のいのちのバランスへ～
エルンスト・フォン・ワイツゼッカー（ローマクラブ名誉会長 / 元ドイツ国会環境委員長 / 元カッセル大学学長 / 環境思想の世界的リーダー）

[3] ラウンドテーブル：ポストコロナ時代を拓く「地球価値」とは？　日本の文化、科学技術は、そして、アジア的価値は、どう貢献できるのか？ ～西洋と東洋の架け橋となる Japan-SDGs 構築に向けて～

コーディネーター：
野中ともよ（ローマクラブ執行役員 / 元 NHK メインキャスター）
飯尾　歩（中日新聞論説委員）

パネリスト：
山本　尚（中部大学教授 / 文化功労者）
◆「民族性と科学技術アプローチ」

黒田玲子（中部大学特任教授 / ローマクラブ正会員 / 元国連事務総長 SDGs 諮問委員）
◆「Post COVID-19 社会の中の科学と SDGs」

チャンドラン・ネール（GIFT代表 / ローマクラブ執行役員 / 香港在住のアジアを代表するオピニオンリーダー）
◆「アジアの思想とPost COVID-19社会経済システム」

辻本雅史（中部大学副学長 / 元教育史学会会長）
◆「日本人の思想形成：知と身体 ― 江戸時代の視座から」

小宮山宏（三菱総合研究所理事長 / ローマクラブ正会員 / 東京大学 28 代総長）
◆「課題先進国と Post COVID-19 プラチナ社会」

ヴェルナー・ローテンガター（カールスルーエ工科大学名誉教授 / 元世界交通学会会長）
◆「Post COVID-19 のモビリティとロジスティックス」

八重樫武久（元トヨタ自動車理事 / ハイブリッド開発統括）
◆「何故、世界の技術規範は劣化していくのか：自動車産業界の不祥事そして未来への回復策」

コメンテーター：
茅　陽一（地球環境産業技術機構理事長 / ローマクラブ名誉会員）
松浦晃一郎（中部大学学事顧問 / ローマクラブ名誉会員 / 第8代ユネスコ事務局長）
中西久枝（同志社大学グローバル・スタディーズ研究科長）

[4] 閉会挨拶
石原　修（中部大学学長）

学校法人中部大学
創立80周年記念
国際シンポジウム実行委員会

参加を希望される方は、
https://www.chubu.jp/80th/news/8733/ か
QR コードからアクセスしてウェブ登録してください

⬆キーノートの内容が掲載されているローマクラブ創立50周年レポート**「Come On！目を覚まそう！」**の**購入予約**もできます